

「越前市政報告」

越前市長 奈良俊幸

昨年7月20日に発生した「越前市東部集中豪雨」に続き、本年(平成25年)は7月30日から8月1日にかけて、市の西部地域が大雨に見舞われ、土砂崩れや土砂の流出、農林業施設や道路施設の崩壊等の被害を受けました。

7月30日は、前日からの大雨により吉野瀬川の水位が上昇し、上流域の白山地区・坂口地区においても土砂災害の危険度が高まったことから、平成16年と18年に続き、吉野瀬川流域等の4,478世帯、約13,000人に避難勧告を発令しました。

その後、吉野瀬川の水位は上太田町で氾濫危険水位を14cm上回りましたが、幸い越水には至りませんでした。

また、2日後の8月1日未明にも再び大雨に見舞われ、吉野瀬川の水位が避難判断水位近くまで上昇したことから、流域を対象に避難準備情報を発令しました。

被災状況としては、農林業施設関係で農業施設が46カ所、林業施設が12カ所、治山施設が11カ所、合計69カ所に災害が発生し、道路施設では合計8カ所に災害が発生しました。

被災力所の一刻も早い復旧に向けた取組みを進めるとともに、吉野瀬川の治水対策事業の促進を改めて県に強く要望した次第です。

原子力防災については、県が7月18日に県原子力防災計画を改定し、原子力災害対策を重点的に実施すべき地域の範囲を「緊急時防護措置を準備する区域」(UPZ)として、原子力事業者から概ね半径30kmの範囲に拡大しました。

越前市は市域のほぼ全域が、日本原子力発電敦賀発電所及び日本原子力研究開発機構高速増殖原型炉もんじゅから半径30km圏内に位置しているため、市では県原子力防災計画の改定を受け、市住民避難計画を含む市地域防災計画(原子力災害対策編)の基本方針を取りまとめ、8月21日に市防災会議の承認を受けたところです。

今後、30km圏内の越前市民の広域避難については、県が県内(坂井市・あわら市)及び他県(石川県小松市・能美市)の避難先の具体的な避難施設や避難経路等を示すことになっていることから、年内を目途に市地域防災計画(原子力災害対

策編)を策定してまいります。

昨年8月に着工した北陸新幹線については、建設主体である鉄道・運輸機構が同意の得られた地域から中心線測量の準備作業となる基準点測量を実施しており、早期の工事着工に向けた取組みが進んでいます。

また、並行在来線については、県や沿線自治体、経済界から成る県並行在来線対策協議会が3月29日に設置され、北陸新幹線の金沢・敦賀間の開業後、第三セクターとして運営することを確認しました。

協議会では今後、現況調査や将来需要予測調査などの基礎調査を行う予定となっています。

コウノトリが舞う里づくりについては、一昨年の12月から市内の白山地区で飼育しているコウノトリのペア「ふっくん」と「さっちゃん」が、5月3日から11日にかけて5個の卵を産卵しました。

しかし、5月15日と24日に検卵した結果、残念ながらいずれも無精卵と確認され、今年のヒナの誕生は御預けとなりました。

本市では「コウノトリが舞う里づくり戦略」を策定し、コウノトリをシンボルに環境調和型農業の推進や里地里山の保全再生、子どもたちへの環境教育の推進等に取り組んでいますが、一連の取組みの根底にあるのは「命を大切にすまち」を築いていきたいとの決意です。

お陰様で、本市のコウノトリが舞う里づくりが高く評価され、昨年12月には「水辺と生き物を守る農家と市民の会」の活動が、(公社)日本ユネスコ協会連盟の100年後の子どもたちに地域の文化や自然遺産を残し、伝えていくことを目的にする「プロジェクト未来遺産」に登録されました。

半世紀振りの県内でのコウノトリの誕生を夢見て、引き続き県や地元と協力し、コウノトリが舞う里づくりを推進してまいります。

福井県が招致した「SATOYAMA 国際会議2013inふくい」については、9月8日から14日まで開催され、本市では8日にオープニングイベントの「福井子ども環境教育フォーラム」が市文化センターで開かれ、12日にはエクスカーション(体験型の見学会)が白山地区で行われました。

エクスカーションでは、世界各国からの参加者が無農薬・無化学肥料の「コウノトリ

呼び戻す農法米」の田んぼや飼育中のコウノトリを視察した後、白山小学校で児童の研究発表に耳を傾け、昼食には「コウノトリ呼び戻す農法米」のおにぎり等による「里山弁当」に舌鼓を打ちました。

環境調和型農業の推進については、県認証特別栽培米等の作付面積が平成25年度は約540haと県内の約4割を占めており、環境に優しい農業を積極的に推進してきたことが高く評価され、「第18回全国環境保全型農業推進コンクール」において、越前たけふ農業協同組合と越前市が3月4日に優秀賞を受賞しました。

本市の東西骨格幹線道路である都市計画道路戸谷片屋線については、県施工区間である日野川左岸から吉野瀬川桜橋までの延長883mが3月20日に開通するとともに、市施工区間である国高地区の延長1,060mが8月23日に開通しました。

昭和58年の着工以来、31年の歳月を経て、戸谷片屋線が全線(延長5,600m)開通したことから、本市はもとより丹南地域の交通ネットワークが飛躍的に改善し、安全で円滑な自動車交通の確保、地域間の連携強化、産業や観光の振興等に大きく寄与するものと期待しています。

スポーツの振興については、平成30年の「福井しあわせ元気国体」まであと5年と迫る中、指導者の養成や選手の育成など競技力の向上を図っていくため、4月25日に「市競技力向上プロジェクト」を立ち上げ、「越前市ふるさと大使」で(公財)日本サッカー協会名誉会長の小倉純二氏に特別顧問に就任いただき、国体の成功に向けた取組みを開始しました。

福井国体のフェンシング会場となる市体育館については、平成28年度の完成を目指して改築することとし、建設位置を現体育館の北側に定め、基本設計を行っているところです。

弓道場については、武生2中(妙法寺町)の南東に移転・改築することとし、来年3月の完成を目指して、8月19日に起工式を行いました。

丹南総合公園については、県が平成26年度中の完成を目指す中、7月に本市が指定管理者に指定され、9月21日には野球場及び多目的グラウンドが供用開始されることになっています。

オープニングイベントとして、9月21日から県軟式野球連盟による県学童野球大

会が開催されるとともに、9月23日には「越前市の日」として、BCリーグの福井ミラクルエレファントの試合が計画されています。

市体育館の改築や野球場・弓道場等の移転などを踏まえ、本年度末には武生中央公園の再整備計画を策定する予定です。

読書のまちづくりについては、5月5日に「越前市ふるさと大使」のかこさとし氏(越前市出身)をお迎えし、「読書のまち宣言式」を行いました。

県内初の「読書のまち宣言」を機に、市民との協働により、さらに読書のまちづくりを推進してまいります。

また、読書のまちの推進拠点として、4月26日には「かこさとし ふるさと絵本館 硯」を武生中央公園の南側(高瀬一丁目)に開館しました。

かこさとし氏の描いた原画や絵本の制作過程のレプリカなどを展示するとともに、約2,200冊の絵本や紙芝居を備えていることから、多くの子どもたちが「硯」を訪れ、創造力や探求心を育むことを期待しています。

歴史と文化を生かしたまちづくりについては、越前国府跡の発見に向け、平成20年度から24年度まで国府関連遺跡調査を実施し、5年間の調査報告書を3月に発行しました。

これを受け、こしのくに(北陸道)に属する越前、加賀、能登、越中、越後の5カ国の国府所在市(越前市、小松市、七尾市、高岡市、上越市)が、国府所在地としての歴史・文化遺産を末永く後世へ継承することに努めるとともに、国府をテーマとした広域での魅力発信、歴史・文化を通じた相互交流を行うことを目的に、「第1回こしのくに国府サミット」を10月5日と6日に越前市で開催します。

5市では国府跡がまだ特定されていないことから、各市の知見を共有して、国府跡の発見に向けた市民の機運を高めてまいります。

太陽光発電設備の普及促進については、市公共施設の屋根貸し事業の募集を実施し、降雪量の多い日本海側では初めて、昨年12月に5施設の事業者を決定しました。

4月24日に吉野小学校の屋内運動場で最初に発電を開始したところであり、災害時には避難所となる屋内運動場の非常用電源や夜間の補助電源に蓄電池を配備したことから、災害に強いまちづくりにも資するものと考えています。

また、省エネルギーの推進については、本市と鯖江市が共同して、県内初となるリース方式により、市が管理する街路灯のLED化を本年度から進めているところです。

越前市の約3,000灯と鯖江市の約1,100灯のLED化を一気に実施することで、CO2排出量の大幅な削減と電気料・維持管理費の低減を図ってまいります。

今後も市民との協働を重視しながら、「元気な自立都市 越前」の創造を目指してまいりますので、武生郷友会の会員の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

<プロフィール>

1962年 武生市生まれ

1985年 早稲田大学(武生郷友会)卒業

1990年 松下政経塾卒業

1991～2005年 福井県議会議員

2005年 武生市長(4カ月間)

2005年～ 越前市長